

長崎北病院 伝言板 4月号

令和7年4月1日発行

4月。卯月（うづき）。急に暖かくなりました。清少納言は枕草子で「春はあけぼの。やうやう白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲のほそきたなびきたる」と春は夜明けの空が一番美しいと述べています。皆さん早起きして夜明けの空見ました？ 「春眠暁を覚えず（春の眠りは心地よいため朝になったことに気付かず、なかなか目が覚めない）」の方ですかね。

「おえかぶる」

伏目がちの新人が行き交う季節。今はまだ風にゆれる淡き桜花の如し。しばらくすれば桜花は若葉に変わり、さらに緑濃き葉になる。眼をあげて胸を張り自信を持って歩く日がすぐに来ます。ご心配なく。よろしくお願ひします。

新人の皆さん、初々しいスーツ姿。髪もばっちり決まっています。ところでこちらの方はというと、先日の会話。「床屋行ったと？」「スッキリだったやろ」「そうね、だいぶおえかぶったもんね」。おえかぶる？長崎弁です。「しばらく床屋に行っていないので髪が伸びて鬱陶しい、見苦しい」という意味です。4月、新年度。頭なりとスッキリと。床屋に行きました。

医療業界、病院業界、明るい話を聞かない。6割以上の病院が赤字。看護師不足、必要経費増加、病床縮小、倒産、廃院などなど。コロナ禍で患者さんが受診を控えた流れがコロナ後も続いており、患者さんも減っています。電気、水道、ガス、備品、検査機器、薬代、米、食材。必要経費はどんどん上がっているのに値上げはできない構造的問題がありますがそれは政治の問題。



どうにもできません。今後は全ての病院が安泰という時代ではなくなるのでしょうか。その中で生き残っていけるかどうか。世の中に必要とされる病院、特徴がある病院、なくては困る病院になるしかないと思います。

そうなれるように当院も模索が続きます。

病院の困窮、衰退の一因として看護師をはじめとした人員不足があります。対策の一つとしてAIの活用やIOT（インターネットとものを繋ぐ）の導入などは今後も進んでいくと思います。さらに、コロナ禍で対人接触が制限されたことでリモートワークが加速されました。在宅勤務が推奨され、基本は自宅で仕事、Webで会議や打ち合わせ。学校や実習もリモートや座学になりました。それで成り立つ仕事もあります。リモートへの移行やAI導入は時代の流れです。しかし、医療の世界は対人接触なしでは成り立ちません。人が基本、財産なのです。その場にいなければ成り立たない職業です。今、桜が咲き誇っています。もちろんモニター、画面越しでも綺麗な桜は見れます。しかし、その場にいなければ、匂い、気温、ざわめき、雰囲気、周囲の状況はわかりません。葉っぱに虫がついているかもしれない、桜の木が病気かもしれない、綺麗な桜の下はゴミだらけかもしれない。映された部分、言葉の説明で判断するしかありません。医療の世界ではそれでは全く不足。五感を働かせる、想像力、人間力が大切です。「いつもと違う」「触ってみたら熱っぽい」「病気の匂い」「何かおかしい」。人間が捉える情報量は桁違いに多いのです。機械は助けにはなりますが替わりにはならない。人の力が医療の根本です。

今年もたくさんの新人が加わってくれました。新しい人の新鮮な感性、人間力が加わることで病院は活性化し、繋がっていきます。慣れるためには、まず目を見て大きな声で挨拶から。挨拶され、明るい声をかけられて嫌な人はいません。挨拶はコミュニケーションの入り口。「おはようございます！」から。（PS:最近目も耳も悪いのよね。大きな声で挨拶してください）(A.S.)

